文章作成講座課題

〈作品を端的に表したキャッチフレーズ〉 40 未満

利再来ルー素材と知恵を、受け継ぐ作品

(↑あくまで、例えば、ですよ。 作品名があるのかな？ キャッチフレーズは、それとの関わりの中で読まれる。それと一体で考えると、それぞれが生きてくる文章表現が考えられる。こちらの課題の出し方が良くなかったネ。タイトル名と共に再度、示してくれるとありがたい。)

〈何がしたいか〉 800～1000

今着ている服も、いつかは破れたりすり切れたりして、着られなくなってしまいます。その後のことを、考えたことがありますか。

私は、古着をはじめとした「生活の中で不要になった布」を、様々な場所で集め、そこで出会った人と共に、再び使えるものとして蘇らせる作品づくりをしています。技法としては、パッチワークと裂き織りを選択しています。どちらも布をつなぎあわせる技法で、服や敷物など、生活の中で使える形の作品に仕上げています。【この文章は、ヒトカタマリで表したい？ でなかったら、ここで改行した方が良いヨ】

私の制作（形態 「私の制作は」 だけの方が分かりやすいよ）は、作品を仕上げるだけが目的ではありません。一度は不要といわれた素材を使用し、作ったものを使ったり、作るプロセスごと自体を様々な人と共に行うことを（分かち合ったりすることを どうう？）意識しています。そうすることによって、私の知らなかった、素材を生かす知識を教えてくれる人と出会うことが出来（単に、出会え、というよりも、この表現の方が、ハッキリ伝わるんじゃないかな。デキという文言が重なるので、避けたかな）え、また他の人にその知識を伝えることができ、さらには出会った人が作品を見て、素材に対する姿勢を見直す機会を提供出来（←ではないかしら。あなたは、その人に「教えた」のではなく、「考える」ように促したいのではないかな）たりするからです。（できるのです でも良いかな）

※この文章は、通常の散文としては、尻切れトンボ的だが、作品に付す文章としては、良いと思う。残された空白部分を、鑑賞者が埋めてくれるネ、きっと。日本の石庭みたいだ。面白い組み立てだと思います。

(城田香菜子)